

～調布市民放送局員「ゲゲゲの女房」エキストラ体験談～

調布市民放送局では、「ゲゲゲの女房」推進委員会から連絡を受け、撮影・編集するだけでなく急遽エキストラで出演してしまいました。とっても勉強になり、楽しかったです。「映画のまち調布」「東洋のハリウッド」と呼ばれた土地柄です。皆さんも一度体験して映画の町ならではの楽しみ方をしてみませんか？

<体験記1>「百聞は一見にしかず」実に楽しい (12月20日・22日参加)

日曜日、朝早いのが大変だったが内容は通り抜けるシーンを数回で8時頃には終了。帰って寝ることが出来た(^。^)

火曜日、前回と違い演技力が必要な場面に戸惑う。

・子どもの父親役で、お土産屋の前でおもちゃをねだる子どもを諫めて連れ去るシーン

(いきなりやれと言われても・・・。どうせはつきり写らないからいいか。)

・そば屋の客で、蕎麦を食べているシーン。

(蕎麦好きの私はエキストラを忘れふつうに食べた。全部食べないようにと言われたときには、すでに遅かりし。ふふふ・・・。)

・子ども連れの親子でふつうに歩く。これが数回繰り返し

(寒い・・・わしはこんなとこにきとうはなかった～・・・叫びたかった。)

CATCHに入った頃、テレビ番組の見方が変わった。

エキストラをやってドラマの主役よりもエキストラの動きを注目するように変わった。

今回のロケを間近に見ることが出来、また一つ貴重な体験をさせてもらった。

「百聞は一見にしかず」 実に楽しい。

<体験記2> 調布市民放送局の熱い心が調布市内に伝染していくといい (12月22日参加)

「はい まわりました---本番、よーいスタート」の声で始まった撮影。

二人が赤駒をお土産に買う短いシーンです。

出演者3人(主演の二人と店員)全体と一人づつに寄り・引き、左・右・真ん中、手元アップ、と撮影は延々と続き、いったい同じ場面で何種類撮るの???

私の頭の中は、この引きとこのアップのカットをつないで次は・・・とまるで自分が編集するかのよう興奮状態。

先日、調布市主催の映像講習会で、日活のプロの編集者の指導を受けたばかりで、本物の撮影を見学できたのはベストのタイミングでした。

緻密に繊細に撮影して、その中からベストの編集をするのね(うるうる・・・感動)

ロケの一隅に据えられた機材に埋もれて吹きさらしで作業する技術さんたちに、尊敬とあこがれのまなざしを熱く向けたけれど、声もかけられず・・・

俳優さんたちだけでなく、技術マンにも熱烈なファンができたことをファンレターでも出したい気分になりました。

で、エキストラのほうは、ちょっと女優気分に参加したけれど、根気と我慢と人柄が良いことが絶対条件の厳しいお仕事でした。

実際の放送には「あ！今映ったあの影がわたし・・・かも」と叫ぶことになりそう。

一つのドラマの陰にはこうした縁の下の力持ちがいっぱいいるのね。

「ゲゲゲの女房」の舞台調布の住民が、もっといっぱい厚い人情で縁の下の力持ちになれるとうれしいね。

調布市民放送局の熱い心が調布市内に伝染していくといいですね。皆さまお疲れさまでした。

<体験記3> 慣れない草履で歩き回って足が痛いです～。(12月22日参加)

昨日は、寒い中での早朝から日没までの外仕事。さすがに疲れました。が、1日中興味津々で過ごしました。

日曜日の様子をお聞きすると、昨日の方が普通のエキストラのお仕事に近い状況だったように思います。

出番があるのかないのかわからない中でじっと待たされたり、何度も同じことをしたり・・・。

初めて参加する者には、スタッフの動きを見ているだけで面白かったです。

役者さんは、大勢のスタッフ全員の力で作られていく現場で淡々とお芝居をしていく、という感じですね。

NGは、カラスの鳴き声や飛行機の音が原因のことが多かったですが、

松下奈緒さんがレグウォーマーをしたまま本番を撮ってしまったときは、こんなNGもあるのかと笑ってしまいました。

夕方、太陽も沈み始めて薄暗くなっても、照明があると結構撮影できてしまうのですね。

でも、この日の内に予定の全カットを撮り終えなくてはいけないという、ピリピリした雰囲気でした。

お墓参りシーンのあと、出番があるのかないのかわからないまま冷え冷えとしてきた中で待ち続けていた私たちに、

ラストカットの撮影準備が始まったとき、エキストラ担当の妹尾さんが、やっと「今日は終わりですね」と声を掛けてくれてホッとしました。

年代物の着物を着てサザエさんみたいな髪の毛になって、変身するのも面白いな～とは思いましたが、慣れない草履で歩き回って足が痛いです～。

<体験記4>「ゲゲゲの女房」の宣伝を精一杯努めました (12月20日参加)

時代設定：昭和36年秋冬

早朝5時、深大寺児童館集合

まず、食事(おにぎり2個)をして準備(衣装、ヘア、メイク等)のため、別室に1人ずつ行きました。

私は、和装の中年おばさんの設定だったため、我家から母の着物一式持参しましたが、採用は着物と下着と草履だけ、後は、衣装さんからお借りしました。

まず、髪の毛でしたが、鏡の前に座り、懐かしいホットカーラーを巻かれました。ヘアピースも頭に乗つけられ・・・???

途中で主役の松下奈緒さんが、同じ部屋に来られたので私は気もそぞろ・・

ヘアメイクさんに、きちんと前を向いてくださいと怒られてしまいました(T△T)

その後、着付けへ。さすが、慣れた衣装さん。手際よく組み合わせを決め、着付けてくれました。

昭和36年の着物の特徴は、羽織でしょうか?とても懐かしく感じました。

その後、小道具係りの方から和装バックを持たされ、持参した草履を履き、準備完了!

一緒に参加した仲間も昭和36年代のおじさんらしくなっていて、笑っちゃいました(^-^)

その後、撮影地「深大寺」へ

門前さんの前でエキストラの説明があり、何度かのリハーサル(この時は、コート着用可)

待ち時間が長かったため、寒かった!(気温は限りなく0度に近かったのでは?)

参拝客の方、散歩されている方、見学者と色々な方にお目にかかり、「ゲゲゲの女房」の宣伝を精一杯努めました。エキストラのメンバーともすっかり仲良くなり、気分はハイでした。(私だけかな?)

本番前に、ヘアメイクの方が髪を結いにきました。今までの髪は仮のヘアだと分かりました。

なんか女優になった気分でした。

たった数分で、本番が終わり、そこで数人はこの日のエキストラの仕事は終了

私は、その後も残り、深沙堂水源湧水池のところで撮影。今度は夫婦役、

当時の夫婦はどうだったか・・役作りに余念がなく、ご主人の後を3歩下がって、小走りに連いていく・・・(映ってないって!)

というところで、本日の深大寺での撮影終了

出演者の上條恒彦さんと一緒に深大寺児童館に戻り、着替えをして本日のエキストラ、すべて終了でした。まだ、10時30分、一日長いなー 早起きは三文の得!

でもお腹がすき門前さんで温かい山菜蕎麦を食べて帰りました。

ここまでは、ハイテンションで元気だったのですが、帰宅したらどっと疲れがでて、ダウン。

中年のおばさんは、チョッピリ疲れしました。

<体験記5> 通行人からお墓参りまで (12月20日・22日参加)

22日の控え室は、深大寺の本堂脇の建物の2階でした。

店員、子供、焼きいも屋など、通行人以外の役もあり、20日よりエキストラの数も多く部屋は満杯でした。

みなさんで朝食を食べて、7時頃より撮影開始。

この日の撮影は、深大寺の上、植物園の深大寺門の周辺の店先でのシーンで、主役の2人のやりとりが撮影されました。

同じシーンを、カメラのアングルをいろいろ変えて撮るため、延々と撮っている(待っている身としては・・・)という感じで、エキストラも同じ動きを何回もやることになります。

引きの画では、ほぼ全員が店先や道路に展開して、店の客役は、そばやお饅頭を食べる恩恵(?)もありました。

カメラは2台あって状況によって、2台まわしたり1台だけだったり、FDさんの「まわしてください・・・本番・・・よーい・・・スタート・・・」が、耳から離れなくなります。ちなみに、通行人は「よーい」で歩き始めます。

私たち2人以外の人は、13時頃終わって、お弁当を食べて解散でした。

午後は、深大寺の上の西側の墓地での撮影で、撮影開始は15時頃でした。

墓石が並んで狭いうえに、いろいろと現代のものをカモフラージュするために準備に時間がかかったようです。

出番は結果として1カットのみで、私たち2人で、「墓参りをしている想定で・・・」ということで、花を生けたり、挿んだりという感じでした。

日没ぎりぎりの16時半頃撮影は終了しました。

<感想>

締め切り前日になってからの大慌て招集、そこで乗り出したのがCATCH(調布市民放送局)の面々『映画の町調布』復活に向けて重要なことは、やはり、強い好奇心、早い決断、自ら参加する行動力、であることを実感しました。

<ホームページ> <http://www.chofu-catch.tv/>

調布市民放送局

検索

★ ご意見・ご感想をお寄せください!!

★大募集★ ◎番組制作メンバー◎運営メンバー

◎会員・賛助会員・法人会員

◎資金・場所などを支援くださる方 等々

〔編集・発行〕調布市民放送局

<連絡先> 〒182-0012 調布市深大寺東町2-22-16

代表 大野三紀子

090-5532-0486

catch@chofu-catch.tv